

所属・資格 教育学科・教授

申請者氏名 杉森 知也

研究課題		戦前期中等教員の臨時的養成 -植民地台湾における実態に着目して-
報告の概要	研究目的 および 研究概要	本研究は、日本における戦前の中等教員養成の臨時的養成の側面から、現在に至る教員需要の「波」が生じている原因を探ろうとしたものである。その際、戦前の中等教員養成の需給問題に関する体系的な検証が不可欠であり、「内地」だけではなく植民地台湾・朝鮮および「満洲国」を含めた広がりでもとらえる必要がある。マクロな視点での検討とはなるが、養成と需給の全体像をとらえることは戦前および戦後の教員養成問題を考える上で欠かせない。そこで、戦後の教員需給の概略を示しつつ、教員需給の「波」が戦前の教員養成上の課題を克服しきれなかったところに遠因があることを指摘することを目標とした。
	研究の 結果	これまで、戦後の特定の時期・スパンにおける教員需給問題をとらえた研究は多くあるが、戦前および戦前から戦後にわたるマクロの視点でこれを扱った研究はなかった。本研究によって、戦後の教員需給バランスの「波」が戦後固有の問題だけではなく、戦前において特に中等教員の無資格教員を駆逐しきれなかったことと、それが中等教員養成の量的充足を果たすような養成政策を「内地」「外地」とも取り得なかったことによる影響が尾を引いたことが判明した。 同時に、臨時的養成に関して、「内地」では臨時教員養成所が大きな役割を果たしたとともに、植民地台湾・朝鮮や「満洲国」においては政策決定が明らかに遅れたため、窮余の措置としてそれぞれに存在する専門学校レベルの学校に養成を委託したり、臨時的養成の場を付置したりすることで対応する以外に方法はなかった。その意味でも、戦前・戦後を通して、私学を中心とする教員養成の量的充足の側面が大きかったことが明確に把握することができた。
	研究の 考察・ 反省	紙面の都合上、戦前から戦後の教員需給への対応と課題その次の時期にどのような影響していったかを見通そうとする意味はあったが、紙面の都合上、概説的なものにとどめざるを得なかった。これは、そうなることを覚悟の上での執筆であったが、もちろんミクロな検証も不可欠である。申請者がこれまで積み上げてきた研究の蓄積を長いスパンでもとらえたわけであるが、たとえば敗戦直後から新学制に移行する段階における、より具体的な教員不足と教員供給の見通しについて、政策決定との関係を見極めるための検討が必要であることが浮き彫りになった。
研究発表 学会名 発表テーマ 年月日/場所 研究成果物 テーマ 誌名 巻・号 発行年月日 発行所・者	<p>※この欄は、本報告書提出時点で判明している事項についてご記入ください。</p> <p>研究成果物 「日本における教員需給問題への対応—中等教員養成の戦前・戦後の連続性を軸に—」 多摩大学経営情報学部教職紀要編集委員会『多摩大学経営情報学部教職研究』 Vol.2 2018 2019年3月(発行日未定) 多摩大学経営情報学部教職紀要編集委員会 代表 大森拓哉</p>	